

# 行事報告書(研修)

報告者：藤原泰子

行事名	自然観察会
日時	2020年11月12日(木) 10時30分～15時 天候: 晴れ
場所	箕面の森
テーマ	植物観察
講師	池田清さん、大原徹さん 班長 高橋美千代さん、華崎律子さん
参加者	34名
内容 (概要)	<p>猿田専任幹事から本日の活動予定が発表され、1班は新人組、2～4班はベテラン組に分かれて出発する。(新人組は説明するが、ベテラン組は資料を見ながら各自観察すること)</p> <p>観察コース：箕面駅～聖天展望台～オケ原口～姫岩～瀧安寺</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街は車も人も多いので、なるべく一列になり説明を受けながら歩く。レッドロビン、紅葉したナツツタ、保存木のアラカシ、ケヤキ、アオギリ、ビワの花、一両と呼ばれる蟻をも通す鋭い刺を有するアリドオシの赤い実、イズセンリョウの白い実を見ながら聖天橋へ。</li> <li>・聖天橋では、本日の期待のイロハモミジの紅葉が見られ、オオモミジとの違いの説明があった。イロハモミジの葉は重鋸歯でオオモミジは単鋸歯で色づき方も異なる。</li> <li>・登り坂に入り、カニクサ、ウラジロノキ、ハウチワカエデ、リョウブと説明が続く。カニクサは地上部全部が一枚の葉で栄養葉と孢子葉が見られた。箕面の山の斜面の極相樹林のコジイのドングリがたくさん落ちていた。</li> <li>・尾根筋に入ると、いろいろなツツジ科の植物が見られた。紅葉の綺麗なネジキ、シャシャンボ・ナツハゼのおいしそうな実、カナメモチの実、ソゴの実、コバノミツバツツジの時忘れの花が満開状態で見入った。クヌギとアベマキの葉を拾いながら、その違いを説明。アベマキは葉の裏が白く、毛がある。</li> <li>・聖天展望台では、マルバアオダモの冬芽、リョウブ・ネジキの紅葉が身近で見られ、遠くに我々の馴染みの甲山が見られた。樹肌が鹿の子模様のカゴノキ、クリを見て、箕面山荘まで登山道をひたすら歩く。途中の広場に9月頃咲いたリンボクの緑色の実が穂状についていた。</li> <li>・箕面山荘付近では、カシワに似た葉柄があるナラガシワを見て、ここでもキリの時忘れの花が咲いていた。</li> <li>・オケ原林道入り口では、真っ赤に紅葉したナンキンハゼが見られた。ハゼの代わりに実からロウをとる目的で導入されたが、融点が低く使えないのと鹿が食べないので増えて厄介者になっている。アカシデ・イヌシデの葉を比べて違いを見比べた。アカシデの葉先は鋭尖頭、イヌシデは表面や葉柄に毛が多い。センダンの葉が落ちてたくさんの白い実が見られた。実の存在を野鳥に知らせている。</li> <li>・ビューポイントでは、赤・黄・橙・茶・緑色のグラデーションの美しい山を見て感動した。</li> <li>・昼食後、ウワミズザクラとイヌザクラの違いの説明を聞き、カクレミノのグー・チョキ・パーの葉を見ながら坂を下り、エドヒガンの大木を見上げた。ソメイヨシノの母だ。</li> <li>・地獄谷を慎重に降り、姫岩まで来たところでそこから修業の古場休憩所まで上がって、まだ葉が残ったタマミズキの赤い実を見た。最後に瀧安寺のオガタマノキの実、ゲッケイジュ、ボダイジュの実と苞葉を見て解散した。約100種類の植物を説明して頂き、紅葉、それに絶好の観察日で気持ちの良い一日を過ごせた。</li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>始めの挨拶</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アリドオシ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>紅葉した樹木(イロハモミジなど)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>タマミズキ</p> </div> </div>